

# ヘルシンキ宣言改訂に向けた患者・市民の意見 ～患者・市民の言葉で語る研究倫理～

世界医師会「ヘルシンキ宣言」は2024年10月採択に向けた改訂作業に入っています。医師から医師に向けた規範であるため、これまで患者・市民の声は十分に反映されてきていませんでした。患者・市民は研究への参加を依頼されるときに初めて宣言について知る人がほとんどです。そこでわたしたちは、医療開発基盤研究所 (Ji4pe) のワーキンググループ活動として、ヘルシンキ宣言について学ぶ勉強会を重ね、患者・市民だからこそ気づいた研究倫理の課題を、英文論文にまとめました。今回は、患者・市民の立場の著者たちが、その内容について紹介し、議論を深める機会としたいと思います。

主催	臨床研究リスク管理研究会
共催	三井住友海上火災保険株式会社 総合営業第四部第二課
配信日時	2023年11月6日(月) 15時～17時
申込期間	2023年10月16日(月)～2023年11月6日(月) 13時

ご視聴  
無料

## 講演

70分

### わたしたちの「WMAヘルシンキ宣言」： 研究倫理に関する患者・市民の意見と提案

患者・市民の立場の著者たちが、自身の意見と関連したトピックについて発表します。

岸 紀子 CMT友の会 (シャルコー・マリー・トゥース病当事者の会) 事務局長  
「自分の言葉」として腹落ちすることの意義

甲斐 寛人 愛知教育大学教育学部教員養成課程 高等学校教育専攻教科学習開発系理科専修  
患者・市民が理解しやすいヘルシンキ宣言とは？

井上 恵子 医療過誤原告の会  
わたしたちのヘルシンキ宣言について：方法と全体像

齊藤 嘉子 乳がん体験者ピアサポーター  
コロナ禍におけるオンライン・ミーティング、国際規範の共通理解

内田 絵子 NPO法人ブーゲンビリア 統轄理事長 患者の声協議会 世話人  
医療は人類の宝：SDGsを研究の目標に

村上 利枝 相模原協同病院がん患者会 富貴草世話人 代表  
患者の最善の利益：シェアード・ディジション・メイキング (SDM) と多種職協働

鈴木 桂 Person with Parkinson  
先端技術の社会・精神・未来世代への影響

久下 明美 社会福祉士・精神保健福祉士  
「弱者」とされる人の権利保障

船橋 好一 NPOがん患者団体支援機構所属、患者・市民  
ヘルスリテラシーと新しい同意のかたち

## コメン テーター

栗原千絵子 臨床評価刊行会 今村恭子、筒泉直樹 医療開発基盤研究所